

『系統看護学講座 地域・在宅看護論』 各章のねらいと学習目標

● 地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤

序章 地域のなかでの暮らしと健康・看護

本章のねらい

- 具体的な事例を活用し、人々の地域における暮らしや健康課題、医療・看護との接点について、人生の長期間にわたってイメージさせる。
- 「生活するとはどのようなことか」を具体的にイメージさせる。
- 看護は医療施設のなかだけで行われるものではなく、あらゆる場所で行われるものであることを意識づける。

学習目標

地域における人々の暮らしについて具体的にイメージし、健康や医療・看護が暮らしと深くかかわっていることに気づくことができる。

第1章 人々の暮らしと地域・在宅看護

本章のねらい

- 看護の対象を日々の暮らしを営んでいる生活者として理解し、その暮らしと健康との関係について考えさせる。
- 序章で学んだことをふまえ、人々の暮らしを多角的・学問的に理解し、そのうえで地域・在宅看護の意味、地域・在宅看護が重視される社会的背景を理解させる。
- 暮らしとはなにかをあらためて考えさせ、地域・在宅看護とはどのような看護か、また地域・在宅看護に求められる役割について学習させる。

学習目標

A. 人々の暮らしの理解

看護の対象を日々暮らしを営んでいる生活者として理解し、その暮らしと健康との関係について考えることができる。

B. 地域・在宅看護の役割

「地域・在宅看護」への社会の期待とその背景を理解し、地域・在宅看護の果たす役割について考えることができる。

第2章 暮らしの基盤としての地域の理解

本章のねらい

- 第1章で学んだ人々の暮らしの理解をふまえ、本書で学ぶ地域とはなにかを理解させる。
- それぞれの地域は、文化・経済・医療体制・風土などさまざまな特徴をもつことを認識させ、地域のとらえ方を教授する。
- 暮らしは地域の特性に大きな影響を受けていることを理解させ、保健医療福祉をはじめとするさまざまな分野で、地域が重要視されていることについて考えさせる。
- 「地域包括ケアシステム」および「地域共生社会」について教授し、具体的にイメージさせる。

学習目標

A. 暮らしと地域

暮らしが営まれる地域の定義について考え、地域の多様性が理解できる。

B. 暮らしと地域を理解するための考え方

システム理論・システム思考を学び、地域の理解に役だてることができる。

C. 地域包括ケアシステムと地域共生社会

地域包括ケアシステム、地域共生社会とはなにかを理解し、具体的にイメージすることができる。

第3章 地域・在宅看護の対象

本章のねらい

- 対象者が暮らしている地域の特性が、健康に関連していることを認識させる。また、地域・在宅看護の対象者はライフステージも健康レベルも多様であることを理解させる。
- 家族のかたちは多様であり、個人と同様に発達する存在であることを認識させたうえで、家族をシステムとしてとらえ、家族を理解するための思考力を身につけさせる。
- 事例を通して、対象者を深く理解することが、地域・在宅看護の実践にどのように結びつくのかを教授する。

学習目標

A. 地域・在宅看護の対象者

- 地域の多様な特性が、そこに暮らす人々の健康に影響していることを理解できる。

- 対象者のライフステージとその特徴が理解できる。
- 対象者はさまざまな健康レベルにあることを理解できる。

B. 家族の理解

看護の対象である家族について、発達する存在としてとらえ、基本的な理解ができる。

C. 地域に暮らす対象者の理解と看護

対象者を理解することが、よりよい看護実践につながることに気づくことができる。

第4章 地域における暮らしを支える看護

本章のねらい

- 地域・在宅看護で提供する「暮らしを支える看護」の枠組みと概要を教授し、「暮らしを支える看護」とはどのようなものかを具体的にイメージさせる。
- 『地域・在宅看護論Ⅱ 地域・在宅看護の実践』で学ぶ具体的な地域・在宅看護の前提となる、暮らしの場で看護する基本姿勢を意識づける。

学習目標

A. 暮らしを支える地域・在宅看護

「暮らしを支える看護」の概要を理解し、具体的な実践についてイメージすることができる。

B. 暮らしの環境を整える看護

暮らしにおける環境の重要性や意味を理解し、暮らしの環境を整えるためにどのような看護が必要とされるかを理解できる。

C. 広がる看護の対象と提供方法

地域に暮らす人々の健康ニーズは、療養者のみならずさまざまな健康レベルの人々がもつことを知り、そうした健康ニーズに対する看護の役割を理解できる。

D. 地域における家族への看護

家族の健康における地域・在宅看護の役割を理解し、セルフケア力を高める支援の大切さに気づくことができる。

E. 地域におけるライフステージに応じた看護

それぞれのライフステージの特徴と生じやすい問題を知り、さまざまなライフステージにある人々を支えるための地域・在宅看護の役割を理解できる。

F. 地域での暮らしにおけるリスクの理解

暮らしにおける危険について学び、それらを防ぐための地域・在宅看護の役割を理解できる。

G. 地域での暮らしにおける災害対策

地域に暮らす人々の、災害に対する事前の準備として重要なものにはどのようなものがあるか、また災害時にはどのような対応をとることが適切かを学び、地域・在宅看護が災害に対し

どのような役割を果たすべきかが理解できる。

第5章 地域・在宅看護実践の場と連携

本章のねらい

- 地域・在宅看護のおもな実践の場を紹介し、それぞれの場における看護の役割や看護実践について理解させる。
- 多職種・多機関の連携について教授し、療養の場の移行や地域・在宅看護における多職種連携についてイメージさせる。

学習目標

A. さまざまな場、さまざまな職種で支える地域での暮らし

地域・在宅看護の場を人々の暮らしと結びつけて考え、さまざまな看護実践の場があること、多職種で連携して地域に暮らす人々を支えることの大切さに気づくことができる。

B. おもな地域・在宅看護実践の場

地域・在宅看護において、看護師が活動するおもな場について理解できる。

C. 地域・在宅看護における多職種・多機関連携と協働

看護師と協働する医療福祉専門職や医療福祉関連機関について理解し、他職種が連携して地域に暮らす人々の暮らしを支えることの必要性を理解できる。

第6章 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用

本章のねらい

- 人口構造の変化や地域社会の変化などの社会背景を念頭におき、地域・在宅看護を行うにあたって知っておくべき法制度を広く教授する。地域・在宅看護ととくに関係の深い訪問看護制度については、より詳細に学習させる。
- 対象者の権利擁護およびサービス提供者としての看護師の権利擁護について理解させる。

学習目標

- 地域・在宅看護実践に関連する法制度を理解できる。
- 訪問看護制度の概要について、理解できる。
- 対象者の権利擁護と看護師の権利擁護について、その重要性と基本的な考え方について理解できる。

● 地域・在宅看護論 2 地域・在宅看護の実践

序章 地域・在宅看護の実践

本章のねらい

- 具体的な事例を活用し、地域で暮らしている人を暮らしのなかで看護するとはどのようなことかをイメージさせる。
- 『地域・在宅看護論 1』の序章の事例との対比により、暮らしは変化の連続であること、本人や家族はさまざまな変化に対応しながら暮らしていることを理解させる。
- 家族の危機に際しての専門家の役割、ロングタームケアについて考えさせる。
- さまざまな関係者による連携、地域における互助の大切さを意識づける。

学習目標

暮らしは変化の連続であること、本人や家族はさまざまな変化に対応しながら暮らしていることを理解し、暮らしのなかで看護するとはどのようなことかを自分の言葉で説明できる。

第1章 地域・在宅看護の展開

本章のねらい

- 地域・在宅看護における看護過程の特徴、各段階におけるポイントを理解させる。
- 地域・在宅看護の特性をふまえた看護過程の展開方法を教授する。
- 地域・在宅看護を展開するなかで、対象者・家族・地域の人々の現在・将来のさまざまなニーズをつかみ、新たなケアを生み出したり制度化を社会にはたらきかけたりすることの重要性を考えさせる。

学習目標

A. 地域・在宅看護における看護過程

- 地域・在宅看護における看護過程の特徴について理解できる。
- 地域・在宅看護における看護過程のアセスメント、看護計画の立案、実施、評価と修正のポイント、入院患者を対象とする看護過程との違いを理解できる。

B. 地域・在宅看護過程の展開方法

- 模擬事例をもとに本書の内容に沿った看護過程が展開できる。
- 模擬事例について将来予測できるニーズ、制度化されていないニーズをつかむことができる。
- 地域において対象者・家族・地域の人々の現在・将来のさまざまなニーズをつかみ、新たなケアを生み出したり制度化を社会にはたらきかけたりすることの重要性を考えることができる。

※模擬事例は本書には掲載されておりませんので、ご用意をお願い申し上げます。

第2章 暮らしを支える看護技術

本章のねらい

- 「暮らしの場」で看護を行う前に押さえておくべき心構えを教授する(必要ならば付章A節「訪問看護実習の手引き」も合わせて教授する)。
- 地域・在宅看護における対象者とのコミュニケーションでの看護師の姿勢と役割, パートナーシップの意義について理解させる。
- 地域・在宅看護において家族を支える看護のポイントについて理解させる。
- 療養者の暮らしを取り巻くさまざまなリスクと対策, 地域・在宅看護の場面における看護師への暴力・ハラスメントと対策について理解させる。
- 基礎看護技術で学んだ入院患者への看護技術との違いを意識づけながら, 療養環境調整, 活動・休息, 食生活・嚥下, 排泄, 清潔・衣生活, 苦痛の緩和・安楽確保, 呼吸・循環, 創傷管理, 与薬に関する地域・在宅看護技術の方法を教授する。
- 上記の各技術について「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」別表13-2「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」に合わせて実施できるようにする。

学習目標

A. 暮らしの場で看護をするための心構え

「暮らしの場」で看護を行う際の心構えを身につける(必要ならば付章A節「訪問看護実習の手引き」の内容を身につける)。

B. セルフケアを支える対話・コミュニケーション

地域・在宅看護における対象者とのコミュニケーションでの看護師の姿勢と役割, パートナーシップの意義について理解し説明できる。

C. 地域・在宅看護における家族を支える看護

- 地域・在宅看護における家族のアセスメントのポイントを理解できる。
- 地域・在宅看護における家族を支える看護のポイントを理解できる。
- 家族の意思決定支援, アドバンスケアプランニングについて理解できる。

D. 地域・在宅看護における安全をまもる看護

- 療養者の暮らしを取り巻くさまざまなリスクについて考えることができる。
- 療養者の暮らしを取り巻くさまざまなリスクの予防と対策を理解できる。
- 療養者が安全に外出するための準備と方法を理解できる。
- 地域・在宅看護の実践において生じるリスクとリスクマネジメントについて具体的にイメージできる。
- 地域・在宅看護の場面における看護師への暴力・ハラスメントと対策について考えることができる。

E. 地域における暮らしを支える看護実践

〈①療養環境調整に関する地域・在宅看護技術〉

地域・在宅看護における療養環境調整の方向性、アセスメント、方法を理解できる。

〈②活動・休息に関する地域・在宅看護技術〉

- 地域・在宅看護における対象者の身体活動のアセスメントや支援のポイント、社会活動の支援の方法を理解できる。
- 地域・在宅看護における対象者の睡眠のアセスメントや援助のポイントを理解できる。

〈③食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術〉

- 在宅での食生活の特徴、対象者の食生活・嚥下に関するアセスメントを理解できる。
- 地域・在宅看護における経口摂取の援助について理解し、食事介助やむせ・誤嚥の観察・予防を実施できる。
- 経管栄養法、在宅中心静脈栄養法 (HPN) とそれを受ける療養者の援助を学習する。

〈④排泄に関する地域・在宅看護技術〉

- 暮らしにおける排泄の重要性について考えることができる。
- 地域・在宅看護における排泄の援助の方向性、アセスメントの方法、援助の実際を理解できる。

〈⑤清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術〉

- 暮らしにおける清潔・衣生活の意義や重要性について考えることができる。
- 地域・在宅看護における清潔・衣生活の援助の方向性、アセスメントの方法、援助の実際を理解できる。
- 在宅の場面で入浴援助・清拭・部分浴・洗髪・口腔ケア・更衣の援助を実施できる。

〈⑥苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術〉

- 暮らしにおける苦痛と安楽について考えることができる。
- 地域・在宅看護における苦痛と安楽のアセスメントの方法、援助の実際を理解できる。

〈⑦呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術〉

- 暮らしにおける呼吸・循環の援助の重要性について考えることができる。
- 地域・在宅看護における呼吸・循環のアセスメント、援助の方法について理解し、在宅場面で基本的な呼吸法の援助・排痰ケア・吸引を実施できる。
- 在宅酸素療法 (HOT)、非侵襲的陽圧換気 (NPPV)、気管切開下陽圧換気 (TPPV)、在宅人工呼吸療法 (HMV) と、それを受ける療養者の援助について理解できる。

〈⑧創傷管理に関する地域・在宅看護技術〉

- テープ類による皮膚トラブルとその予防法について理解できる。
- 地域・在宅看護における褥瘡の予防とケアについて理解できる。
- 地域・在宅看護におけるスキンケアとその予防・ケアについて理解できる。

〈⑨与薬に関する地域・在宅看護技術〉

- 地域・在宅看護における与薬の基本的環境について具体的にイメージできる。
- 地域・在宅看護における与薬のアセスメントと在宅ケアのポイントについて理解できる。

第3章 地域・在宅における時期別の看護

本章のねらい

- 健康な時期，外来受診期，入院時，在宅療養準備期，在宅療養移行期，在宅療養安定期，急性増悪期，終末期，在宅療養終了期などの段階について具体的にイメージさせる。
- さまざまな段階において地域・在宅看護が存在すること，継続看護およびロングタームケアが重要なことを理解させる。
- それぞれの段階の特徴，看護師の役割，看護の方向性を学習させる。

学習目標

A. 健康な時期の看護

健康な時期の特徴，看護師の役割，看護の方向性を理解できる。

B. 外来受診期における看護

外来受診期の特徴，看護師の役割，看護の方向性を理解できる。

C. 入院時の看護

入院時の特徴，看護師の役割，看護の方向性を理解できる。

D. 在宅療養準備期(退院前)の看護

在宅療養準備期(退院前)の特徴，看護師の役割，看護の方向性を理解できる。

E. 在宅療養移行期の看護

在宅療養移行期の特徴，看護師の役割，看護の方向性を理解できる。

F. 在宅療養安定期の看護

在宅療養安定期の特徴，看護師の役割，看護の方向性を理解できる。

G. 急性増悪期の看護

急性増悪期の特徴，看護師の役割，看護の方向性を理解できる。

H. 終末期の看護(グリーフケア)

終末期の特徴，看護師の役割，看護の方向性を理解できる。

グリーフケアとはなにかを理解し，どのような看護ができるかを考えることができる。

I. 在宅療養終了期の看護

在宅療養終了期とはなにか，看護師はどのような役割を果たすのかを理解できる。

第4章 地域・在宅看護の事例展開

本章のねらい

- 地域・在宅看護の対象者や家族にはそれぞれの人生や暮らしの物語があることを考えさせる。
- 1人ひとり物語と価値観にそった看護を提供する重要性を理解させる。

- 在宅療養の長い経過における看護師の役割と多彩なケアの重要性を考えさせる。
- 事例展開から医療的ケア児，脳卒中・慢性閉塞性肺疾患(COPD)・筋萎縮性側索硬化症(ALS)・パーキンソン病・統合失調症・認知症・がん終末期の療養者の暮らしの状況，看護の展開のポイントについて具体的にイメージさせる。

学習目標

A. 事例を学ぶにあたって——地域・在宅看護における看護実践の考え方

- 地域・在宅看護の対象者や家族にはそれぞれの人生や暮らしの物語があることについて考えることができる。
- 1人ひとり物語と価値観にそった看護を提供することの重要性が理解できる。
- 在宅療養の長い経過における看護師の役割と多彩なケアの重要性を具体的にイメージできる。

B. 医療的ケア児の事例展開——人工呼吸器装着児の在宅移行の支援

- 医療的ケア児を取り巻く状況について理解できる。
- 医療的ケア児とその親への各段階における看護のポイントについて理解できる。
- 医療的ケア児，人工呼吸器装着者の在宅移行支援について具体的に考えることができる。

C. 脳卒中の療養者の事例展開——在宅移行・在宅療養初期の支援

- 脳卒中の療養者の状況と看護のポイントについて理解できる。
- 脳卒中の療養者の在宅移行支援，在宅療養初期の支援について具体的に考えることができる。

D. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の療養者の事例展開——介護力の高い家族と療養者の支援

- 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の療養者の状況と看護のポイントについて理解できる。
- 急性増悪による入院を経た療養者の在宅療養の再構築について具体的に考えることができる。

E. 筋萎縮性側索硬化症(ALS)の療養者の事例展開——経口摂取の希望をかなえる支援

- 筋萎縮性側索硬化症(ALS)の療養者の状況と各段階における看護のポイントについて理解できる。
- 本人と家族の希望をチームで協力しながら実現していく看護について具体的にイメージできる。

F. パーキンソン病の療養者の事例展開——ロングタームでのケア

- パーキンソン病の療養者の状況と各段階における看護のポイントについて理解できる。
- 家族介護者を支えてロングタームでのケアを実現するための看護について具体的にイメージできる。

G. 統合失調症の療養者の事例展開——地域生活の継続に向けた支援

- 統合失調症の療養者の状況と看護のポイントについて理解できる。
- 本人や家族の気持ちに寄り添いながら地域生活の継続をみざす支援について具体的に考えることができる。

H. 認知症高齢者の事例展開——ひとり暮らしで身寄りが少ない療養者の支援

- 認知症の療養者の状況と各段階における看護のポイントについて理解できる。
- 独居で複数の疾患をあわせもつ高齢者の在宅療養を具体的にイメージし、看護について考えることができる。

I. がん終末期の療養者の事例展開——在宅での看取りの支援

- がん終末期の療養者の看取りの状況と終末期各期における看護のポイントについて理解できる。
- 終末期の在宅療養者の看取りについて具体的にイメージできる。
- 死亡直後の看護について理解できる。

第5章 地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働

本章のねらい

- 地域・在宅看護における多職種連携・協働のなかで看護師が果たす役割、多職種でかかわる意義を理解させる。
- 医療・福祉・介護関係者との連携の重要性、連携の実際について具体的にイメージさせる。
- 医療・福祉・介護関係者以外の多様な個人・団体・機関との連携の重要性、連携の実際について考えさせる。
- 地域共生社会の実現のために看護師が果たす役割とその重要性について意識づける。

学習目標

A. 地域・在宅看護における多職種連携・多職種チームでの協働

- 地域・在宅看護における多職種連携・協働において看護師が果たす役割を理解できる。
- 地域・在宅看護における多職種連携・協働の意義を理解できる。

B. 医療・福祉・介護関係者との連携・協働

- 地域・在宅看護における医療・福祉・介護関係者の連携・協働の目的を理解できる。
- 地域・在宅看護の現場において、看護師と医療・福祉・介護関係者にはどのような連携・協働が行われるかを具体的にイメージできる。
- 地域ケア会議、サービス担当者会議など、連携・協働のための手段について理解できる。

C. 医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働

- 地域・在宅看護において医療・福祉・介護関係者以外の多様な個人・団体・機関と連携・協働を行う重要性について理解できる。
- 地域・在宅看護における医療・福祉・介護関係者以外との連携・協働の方法についてイメージできる。

D. 地域共生社会を実現するために

地域共生社会の実現の重要性、看護師が果たす役割について考えることができる。

第6章 地域・在宅看護マネジメント

本章のねらい

- 地域・在宅看護マネジメントとはどのようなものをイメージさせる。
- 多様な場における地域・在宅マネジメントについて具体的にイメージさせ、その重要性を考えさせる。

学習目標

A. 地域・在宅看護マネジメントとは

- マネジメントおよびケアマネジメントの考え方を理解できる。
- 地域・在宅看護マネジメントとはどのようなものをイメージできる。

B. 多様な場における地域・在宅看護マネジメント

- 退院支援の際に病棟ではどのような地域・在宅看護マネジメントが行われるかが具体的にイメージでき、その重要性を理解できる。
- 地域・在宅看護における外来看護の役割と、外来でどのような地域・在宅看護マネジメントが行われるかが具体的にイメージでき、それらの重要性を理解できる。
- 介護保険制度においてどのような地域・在宅看護マネジメントが行われるか、介護支援専門員がどのような役割を果たしているかが具体的にイメージでき、それらの重要性を理解できる。
- 地域包括支援センターの看護師・保健師が行う地域・在宅看護マネジメントについて具体的にイメージでき、その重要性を理解できる。
- 公的システムの外で地域住民とともに行う地域・在宅看護マネジメントについて具体的にイメージでき、その重要性を理解できる。

第7章 地域・在宅看護活動の創造と展開例

本章のねらい

- 地域・在宅看護活動の創造とはなにか、なぜ必要か理解させる。
- 「暮らしの保健室」の誕生から現在の活動を例に、地域・在宅看護活動の創造と展開の方法についてイメージをもたせる。
- 「暮らしの保健室」以外の地域・在宅看護活動の創造の例を教授し、地域における看護の創造が広がっていることを意識づける。
- 地域・在宅看護活動の創造につながる考え方を理解させる。

学習目標

A. 地域・在宅看護活動の創造

地域・在宅看護活動の創造とはなにか、なぜ必要か理解できる。

B. 「暮らしの保健室」の例

「暮らしの保健室」の誕生から現在の活動を例に、地域・在宅看護活動の創造と展開の方法についてイメージできる。

C. さまざまな地域・在宅看護活動の展開例

「暮らしの保健室」以外の地域・在宅看護活動の創造の例を学習し、地域における看護の創造について関心をもつことができる。

D. 地域・在宅看護活動の創造のための考え方

地域・在宅看護活動の創造につながる考え方を習得する。